

イタリアンライグラス新品種 「エース」の試験成績 (II)

(二) 関東地方の試験成績

イタリアンライグラスの長期利用適応性試験 (昭52)
茨城県畜産試験場・牧草育種指定試験地

項目 月/日	病 害 程 度					乾 物 収 量 (kg/10 a)										
	冠 サ ビ 病			葉 腐 病		1	2	3	4	5	6	7	8	9	合 計	比 率 (%)
	8/2	9/27	10/24	8/2	8/29	11/24	4/16	5/10	6/8	7/7	8/2	9/27	10/25	11/28		
エース	1.0	0.3	0.5	1.8	3.3	153	430	191	360	278	232	171	160	182	2,157	104
マンモスA	1.5	2.3	3.3	2.0	4.5	130	397	232	353	287	225	147	142	165	2,081	100
ナスヒカリ	1.3	1.8	3.8	2.3	4.8	123	433	153	347	292	237	67	101	144	1,895	91
テトリライト	1.3	1.5	2.3	1.8	4.3	112	370	240	345	280	196	181	171	160	2,054	99

注) 播種期: 昭和51年9月20日 病害程度: 0(無)~5(甚) 反覆数: 4

① 初期生育 (秋の収量)

「エース」は播種直後の初期生育が旺盛で、11月24日の刈取りにおいて、供試4品種中で最高収量を示しています。

② 冠サビ病、葉腐病

冠サビ病は夏季以降に発生が多くなりますが、「エース」は僅かに病徴が見られる程度で、明らかに冠サビ病に強いことが認められます。イタリアンの病害の主体は冠サビ病であり、「エース」は9~10月にも旺盛に生育し、家畜嗜好性の良い

草の生産が窺われます。

また夏季に発生する葉腐病にも比較的強い傾向にあります。

③ 年間合計収量

「エース」は春から秋まで多収傾向を示し、特に年内(秋)、早春および越夏後に他品種より多収であり、年間9回刈合計において、生草収量では106%、乾物収量では104%とマンモスAを上廻り、最高収量をあげています。

(三) 東北地方の試験成績

山形県畜産試験場 (昭52)

項目 月/日	越冬率 (%)	生 育 状 況			出穂始 (月・日)	乾 物 収 量 (kg/10 a)					合 計	比 率 (%)
		病 害 程 度		雪腐病		1	2	3	4	5		
		冠サビ病	葉腐病			6/21	7/25	9/7	10/25	11/18		
エース	83.8	2.3	1.0	5.22	715	429	233	308	59	1,743	106	
マンモスA	82.5	2.3	1.0	5.20	686	434	227	256	40	1,640	100	
マンモスB	38.8	4.0	2.0	5.18	380	300	109	106	38	933	57	
ヒタチアオバ	46.3	3.8	2.0	5.18	439	330	103	164	63	1,099	67	
ナスヒカリ	32.5	4.0	2.0	5.24	325	329	138	216	39	1,046	64	
ヤマアオバ	18.8	4.8	3.0	5.15	286	217	57	142	46	748	46	
ワセアオバ	18.8	4.3	3.0	5.11	375	232	-	-	-	607	37	
テトリライト	87.5	2.5	1.0	5.24	632	424	204	285	40	1,585	97	

注) 播種期: 昭和51年9月27日 病害程度: 1(微)~5(甚) 反覆数: 4

① 越冬率、雪腐病、冠サビ病

積雪量の多い山形県では、雪腐病による冬損が著しく、それが越冬率で示されていますが、「エース」はマンモスA、テトリライトとともに良好であり、その他の品種と明らかに区別されます。また、冠サビ病の罹病程度もこれら3品種が軽微であり、抵抗性を有していることが認められます。

② 出穂の早晩性

「エース」は晩生系に属し、ワセアオバより11日、

マンモスA・Bより2~4日出穂がおそいことが示されています。

③ 年間合計収量

越冬率の良否によって収量は大きく影響されていますが、「エース」は春(6月)の収量が供試品種中最高であり、その後も上位を占め、年間合計ではマンモスAに比し、生草収量で112%、乾物収量で106%と他試験場と同様にトップの好成績をあげています。